

2024年「これからの教育と研究～大学生協教員調査」集計速報

名城大学生協同組合

大学生協では、2024年6月～7月にかけて、全国規模で大学教員の皆様にアンケート調査を実施しました。ご回答いただきました教員の皆様には、改めて御礼申し上げます。

アンケート集計の結果速報値をまとめました。

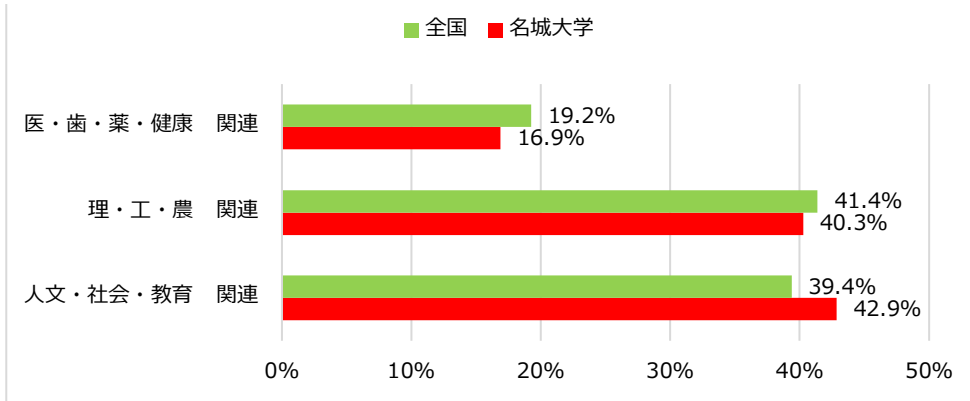
【調査概要】

- 調査実施期間 2024年6月1日～7月15日
- 調査対象 全国の大学生協のある大学で勤務している教員
- 回収数 1,834名（96大学）うち名城大学77名
- 調査方法 Webアンケート
- 調査目的
 - ① 講義のデジタル化やPC必携化等、「学生の学び」の実態や変化を、教育サービスを提供する教員からの視点でつかむ
 - ② 今後「先生方の教育や研究を支える」「学生の学びを支える」大学生協としてどのようなサービスやサポートを提供できるか、議論や検討を行う
 - ③ 店舗での品揃えや全国規模の商品企画、仕入交渉などに活かし、よりよい商品やサービスの提供を行うことに活用する

【1】基本情報

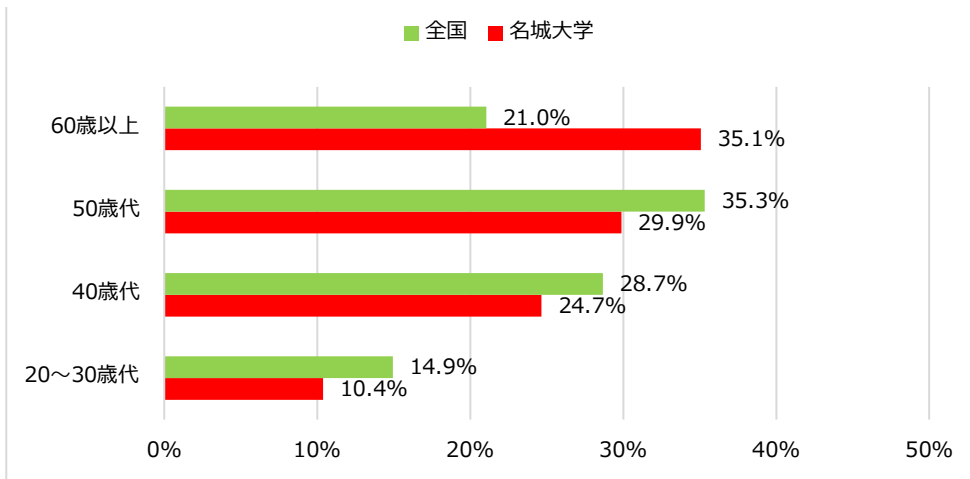
研究分野

回答いただいた皆様の研究分野の割合です

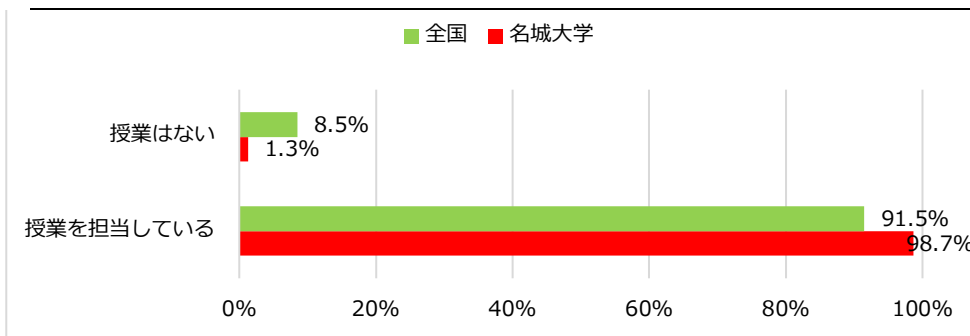


先生の年齢

回答いただいた皆様の年齢分布です

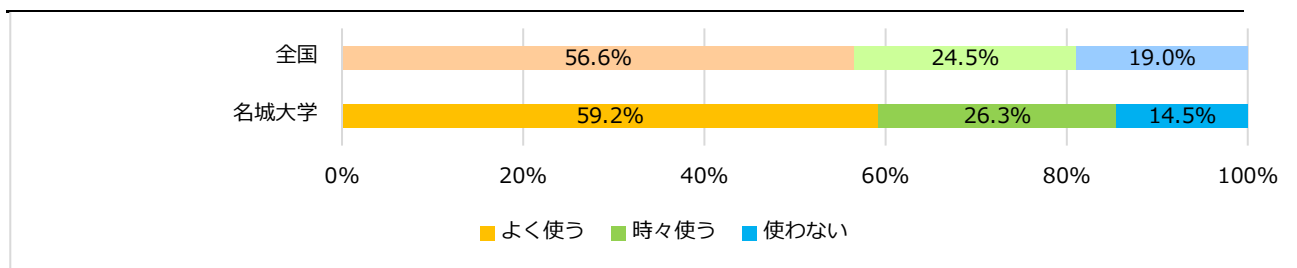


現在、授業を担当されていますか

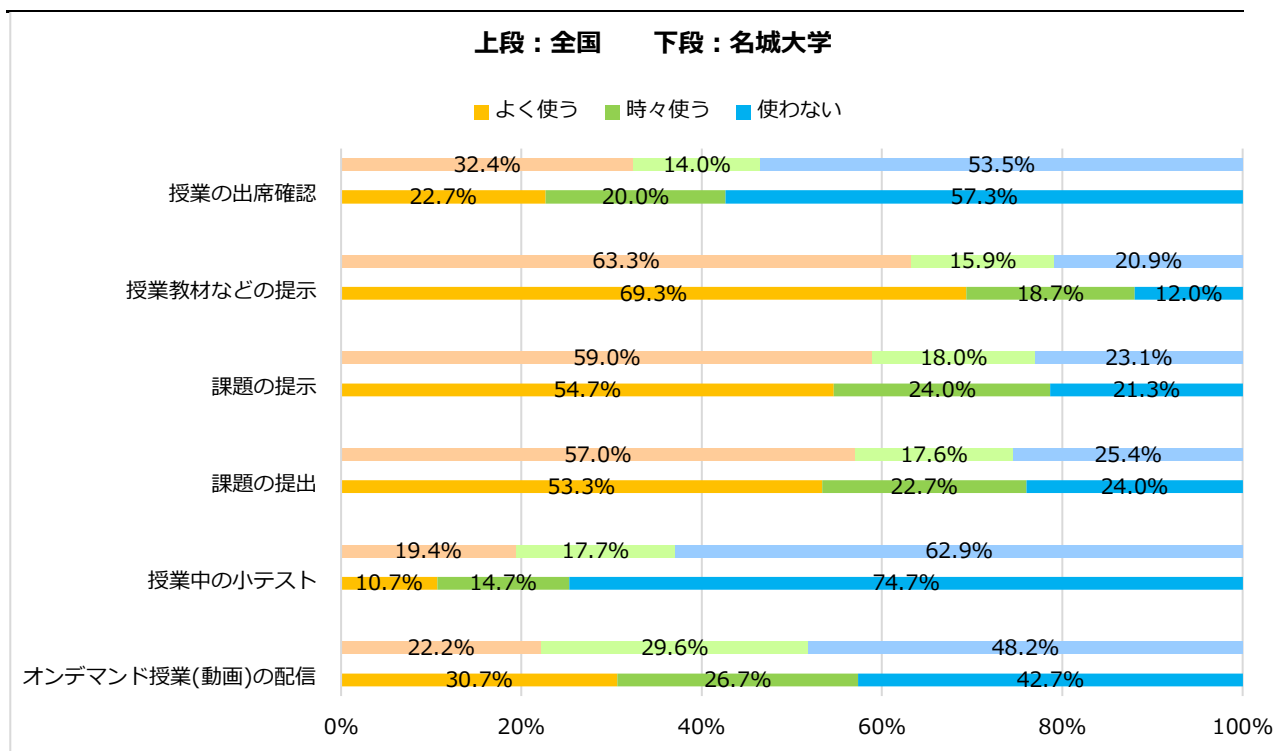


【2】授業について

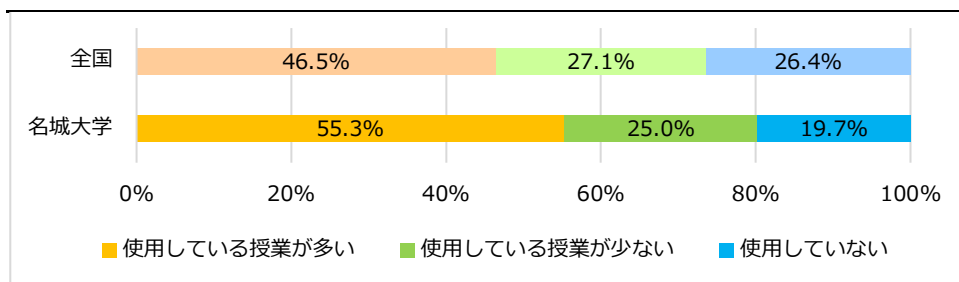
担当する授業において、LMS を利用されていますか



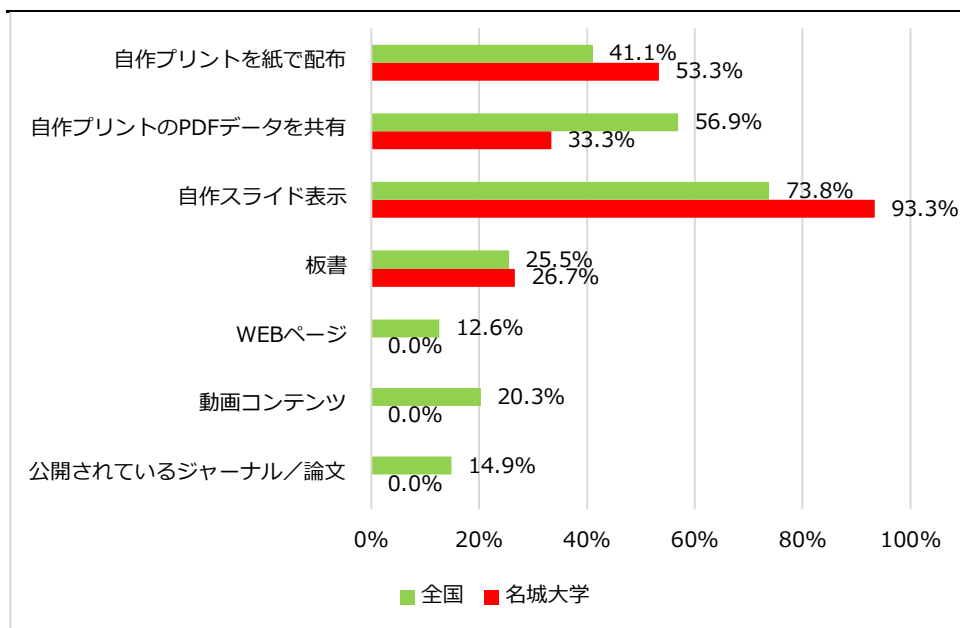
現在のLMSの利用で、あてはまる状況を教えてください



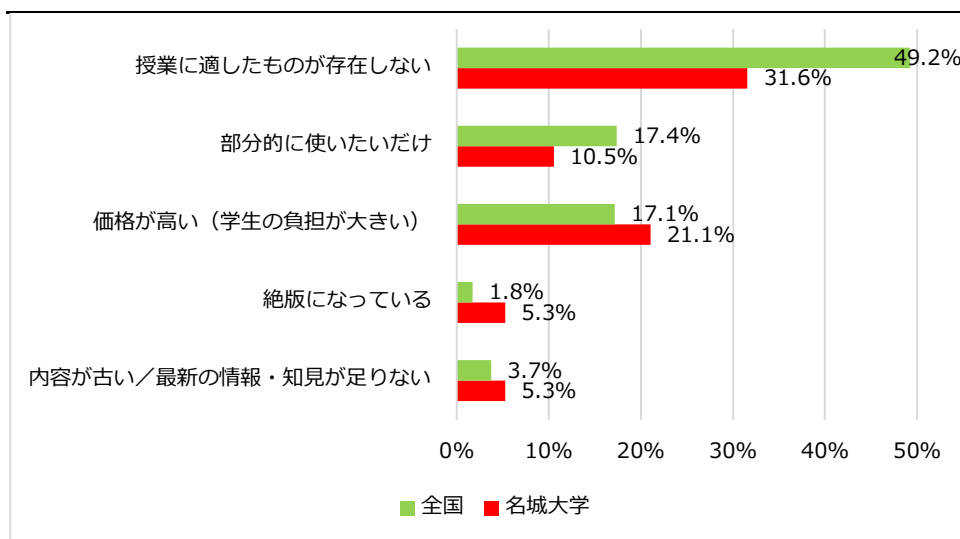
担当授業で指定している市販の教科書はありますか



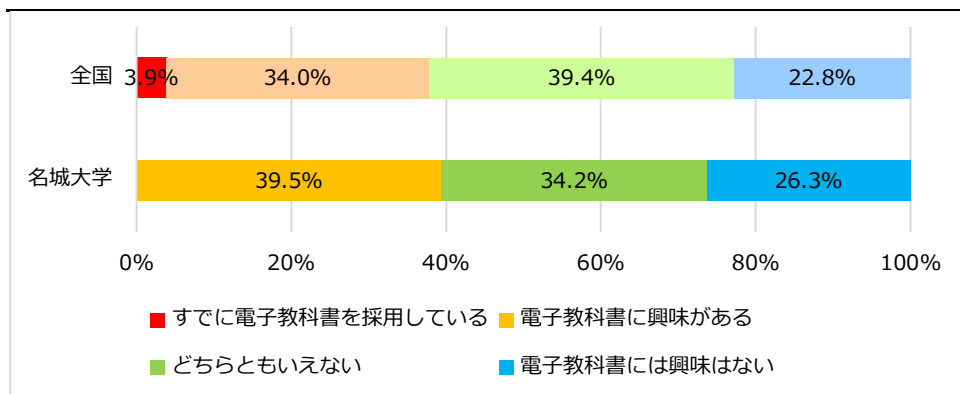
「市販の教科書を使用していない」場合は、何を使って授業を進行していますか



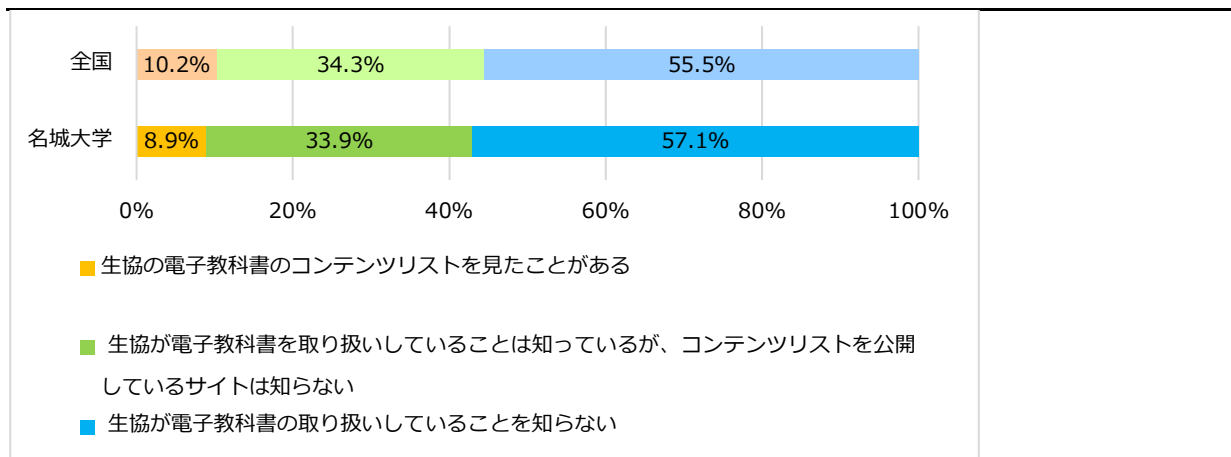
「市販の教科書を使わない」一番の理由をお聞かせください



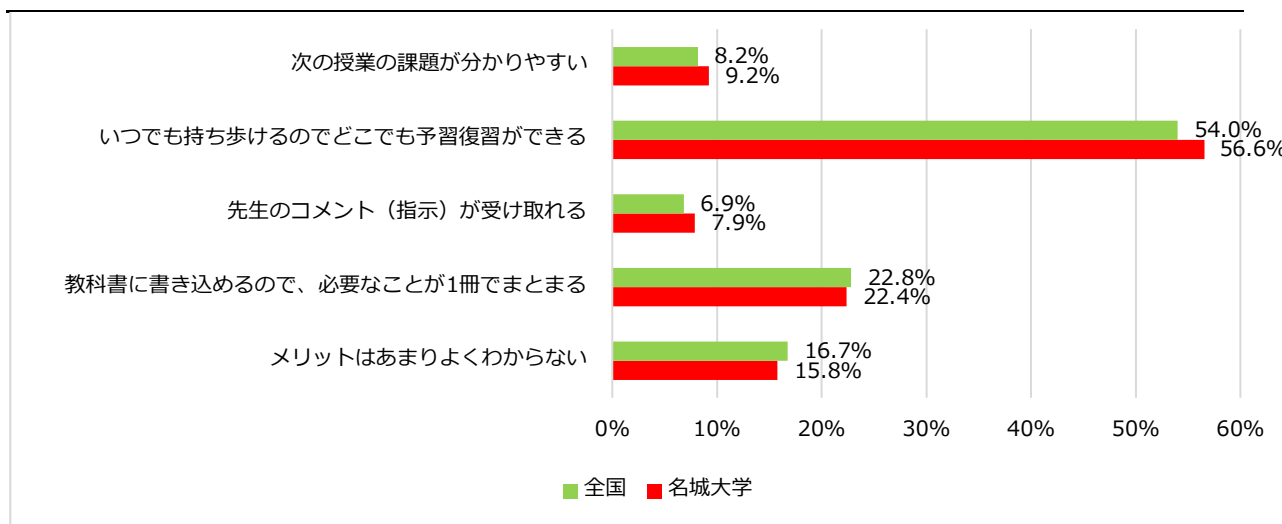
電子教科書の採用に興味はありますか



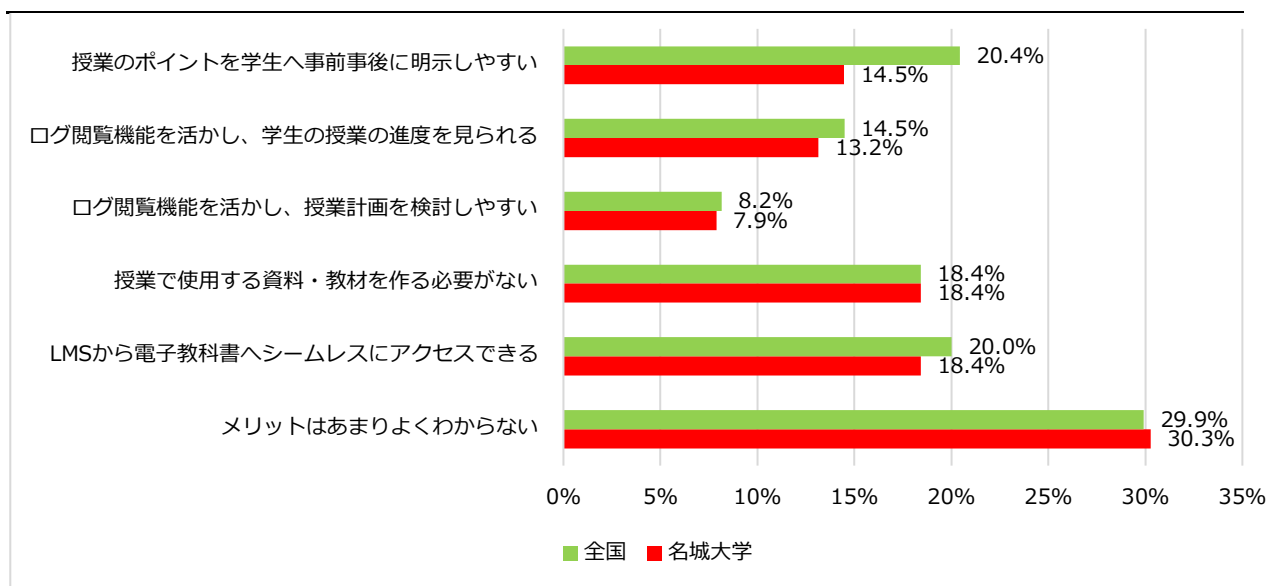
大学生協では、取り扱いしているコンテンツリストを毎月更新して公開しているサイトがあります。
 ご存じでしたでしょうか。



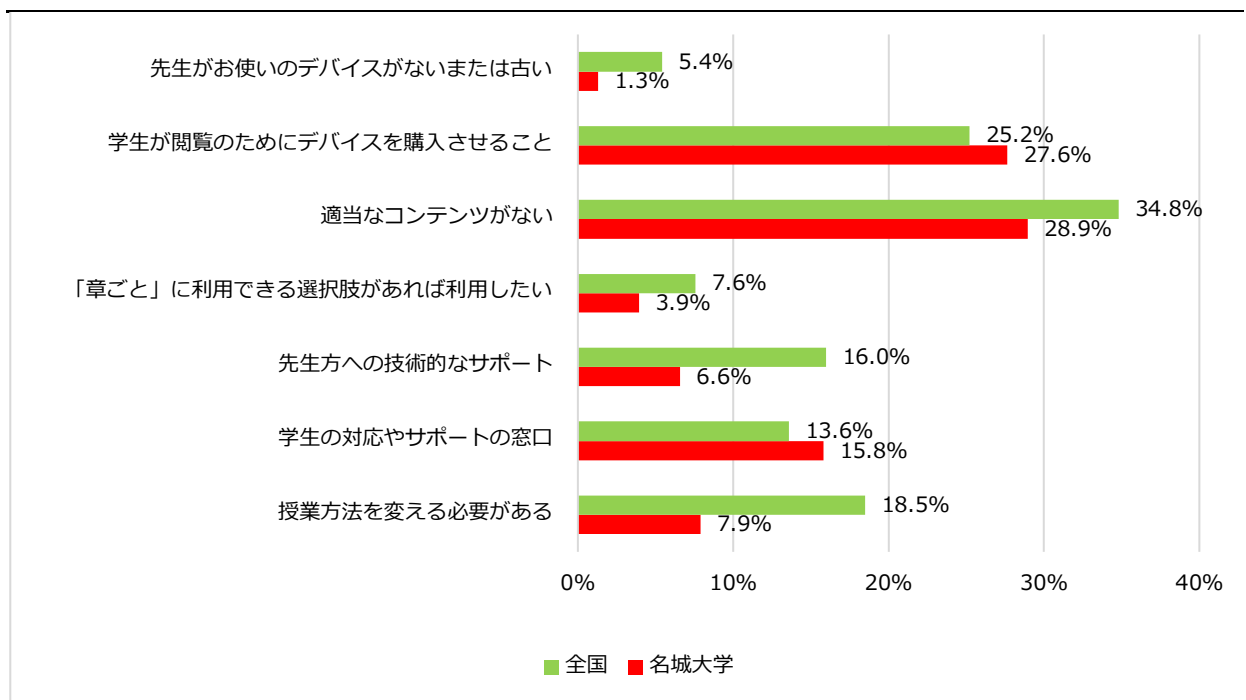
【学生にとって】電子教科書の採用によるメリットだと思う点を教えてください



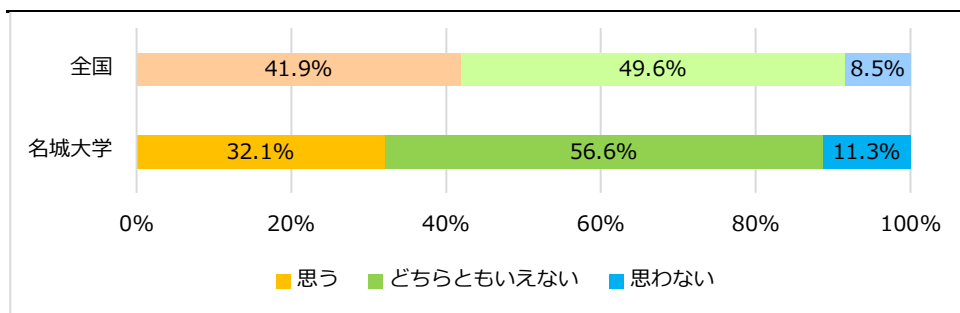
【教員にとって】電子教科書の採用によるメリットだと思う点を教えてください



電子教科書を使うことに対し、ハードルとなっていることはありますか

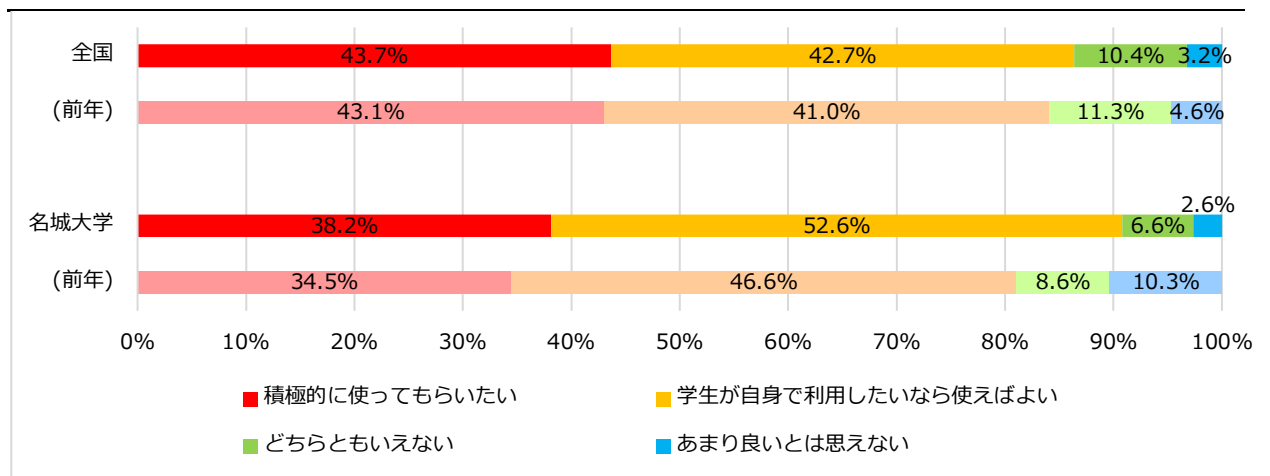


今後、市販の教科書・参考書に電子コンテンツがあれば採用を検討したいと思いますか



【3】学生の「学び」について

対面授業で、学生がデバイスやデジタルコンテンツを持ち込んで授業中に利用することについて、どのように思われますか



上記の理由があればお聞かせください

(入力されたものを無加工で掲載しています)

■ 積極的に使ってもらいたい

名城大学

双方向性のある授業をしているから。
便利な機器は利用すべき
アクティブラーニングに使いやすいので、全員持ってきてもらうとよい。
資料を手元で確認できる
リアルタイムでの質問や意見聴取
LMSにアップしてある教材も授業中に参照したり、授業内容に関連する事項を授業中にネット上で検索してもらったりしてもよい。
より積極的に情報を収集できることで、講義内で学生の理解に応じた新たな課題を出しやすくなるため。
これからの時代を生き抜く学生にとって、よい学びになると思います。
技術進歩に置いて行かれないため
複雑な計算問題やデータ分析演習を講義に導入できる
これからの時代、そうしたデバイスを使いこなすことも求められていると思うから。
デジタルデバイス(PC、iPad、携帯電話など)は授業中にリアクションペーパーや質問に対する回答などの時使用させているが、授業に必要ない時の使用は禁止している。
資料(紙媒体)の配布をなくしたい。

全国(抜粋)

意欲のある学生にとって様々な機器の使用はプラスになると思われるから。意欲のない学生は仕方がない。
質問を予想すれば容易にできるはずの下調べについて、それを現場で補おうとする傾向があるので、その点は事前に注意したい。
これからは、卒業後には、リアルタイムで機器を駆使して分析調査しながら、会議を進める時代になるでしょう。
学生に獲得を期待する能力は、そういったデバイスを使いこなして自ら問題を解決する能力を獲得することだから
このようなデバイスの使用に慣れることは、学生教育の重要な部分です。
生成AIによって学びのスタイルが変わったため、正解を探すのではなく、関係各者との納得解を探すことが必要となったため、蓄えた知識でなく、考えることが重要だから
手作業・紙教材とデジタル装置では出来ることがことなるので、それを理解させれば、ツールとしては積極的に使わせるべき。
時代の要請に合っているから。ただし学生(の家庭)の財力が差異を生み出すような媒体の利用があってはならないと考えている。
基本的に使ってもらいたい。ただし、小テストで電子機器・オンライン環境無しで測りたいときを除く
使用できないと社会人となっていく際にハンデとなる。障害特性により使用したほうがスムーズに受講できる学生がいる。学生のリテラシーが低い状況そのものが課題である。
授業(研究演習)で受講生が予習した内容を、事前にMicrosoft Formsのアンケートフォームで入力してもらい、授業内ではそれを受講生が相互に閲覧しながら、グループディスカッションをおこなうので、電子デバイスの持ち込みはむしろ「必須」となっています。

<p>せっかくこれだけ進歩して、ペーパーレスになり、その場で資料を送付したりできたり、重たい教科書を持ち運ばなくてよいなど、良いところもたくさんあるため、活用すべきだし、今時、それを使いこなせない学生では困ると思うため。</p>
<p>考えながら学習をすすめていく上での補助として利用してもらおうことができれば。ただ答えをネットに求める、というのでは困ってしまいます。</p>
<p>紙の資料以上の活用が可能となる反面、資料配布をデジタルコンテンツにしたら、ノートをとる学生が減り、その点ではマイナスだと思う。便利にするのは学生が手を抜くためではなく、本当の意味ある学習をしなければならぬ点を学生も理解しなければならないし、教員もさらなる工夫と努力が求められていると思う。</p>
<p>タブレットを使っただけのノートテイクは学習効率が上がると感じるので、積極的に使った方が良い。授業に関係ないことをする学生はいるが、禁止してもスマホを使うだけだと考える。</p>
<p>今日の研究・教育において、デジタルコンテンツの利用を避けることはできない。であれば、授業において適切な利用法を身につけるほうがよい。</p>
<p>今後3年5年で学び方は大きく変化すると思う。情報社会の中でエビデンスのある情報は積極的に把握し積極的に授業中使用してもよいと思うが、学生の倫理感など、どう指導教育管理していくか、疑問です。</p>
<p>学生がデジタルコンテンツを利用する方が学習効果は上がると思いますので、性善説に立てば、大いに利用を勧めたい。大学院（修士、博士）の授業では、普通にそれらを利用していると思います。特にゼミでは顕著です。</p>
<p>どんな時代も、技術進歩につれてこういう話になります。時計・辞書・電卓の持ち込み等々を規制する話もありました。学びの本質ではありません。</p>
<p>知りたいことはすぐに調べた方が学習効果が上がると思う。授業に興味がなく、いやいや出席している場合も、デジタルデバイスで静かに遊んでいただいていた方が騒がれるよりまし。</p>
<p>授業中のデバイスやデジタルコンテンツは出来るだけ積極的に利用してほしいが、中には授業に関係ないサイトを閲覧する学生もいて、それらに対する対策もこちらでよく考えておく必要がある。</p>
<p>必要に応じてちょっとしたことを調べながら授業を聞いた方が理解度も高くなると思う。「ド忘れ」して思い出せないことを、受講生にスマホで調べてもらうこともある。考えように寄っては授業時の教員と学生の間でのコミュニケーションツールにすらなりうる。授業と関係ない用途に使われることを快く思っているわけではないが、理解度が低ければ小テストや期末テストで点をとれないように授業をデザインしており、少なくともこれまでは問題らしい問題は起こっていない。</p>
<p>社会に出た際に利用できる手段は利用すべきであるし、学生のうちにそのトレーニングになるのであれば、積極的に行ってほしい。現在の学生はデジタルネイティブと言われるが、情報収集において、私が担当している学生のスキルは高くない。表面的なデータしか拾えないし、吟味もできないため、学生のうちにトレーニングしておきたい。</p>
<p>ノート作成や整理のためにPC端末を使いこなす能力は社会に出て必須と思われ、大学生のうちに頻用しておくことが望ましいため。禁止したときのデメリットのほうが大きいと考えられる。</p>
<p>社会に出れば、それらを活用しながら仕事をすることになるので、大学在学中から、それらをどのように使えば良いのかを学んだほうが良い。ただし、デバイス等を持ち込ませない授業も必要と思う。</p>
<p>大学は自ら学ぶ場所なので、デジタル機器、例えばスマホやPCを持ち込んでの授業は自身の勉強に役立つように活用してもらえたらと思うので、ぜひ授業身持ち込むのはありだと思う。すべては自己責任。</p>
<p>仕事等でデジタルデバイスが利用されていなければ制限もできようが、使いこなすことが必須であるので、制限するようなことを言う立場にない。</p>
<p>学びのスタイルは日々進歩しており、それらを自在に使いこなす能力やスキルが必要だから。もはや、人間は単純な暗記装置ではいられない。機械（AI）には勝てない。なので、それらを使いこなすことが必要。</p>
<p>学生の学びを推進する上でデジタルデバイスの活用は学習効果を高める効果がある。デバイスを講義中に別の目的で使用している場合の学びを阻害する副作用については学生自身の自覚を促すのみが重要と考える。</p>
<p>対面・オンラインを問わず、デバイスやデジタルコンテンツを活用することで、授業の品質や学習効果が上がる。これからの時代、こうした活用技術は、教員はもちろん、学生にも重要なスキルだと思う。</p>
<p>講義中にゲームや楽しむための動画を見ようという行為は好ましくありませんが、講義時間という知識が入ってくる貴重な時間を自ら無駄にしているだけなので、邪魔をしなければ別に構わないと思います。それより、講義の内容を深く理解する上で一部わからないことを調べたり、知りたい補足情報をすぐに手にいれるということは重要な要素になってきているのではないのでしょうか？</p>

■ 学生が自身で利用したいなら使えばよい

名城大学

<p>大学なので自己責任。うまく活用できる人はそれで良い。</p>
<p>講義の内容を理解することが最も大事だから</p>
<p>積極的に使用してもらいたい反面、授業に集中せずに遊んでいる人との区別が難しいため全員への共用は避けたいと考えました。</p>
<p>学習方法は学生各自の自由だから</p>
<p>公序良俗に反したり、秩序を乱さない限りは、使う道具は各人の工夫があって良いと考えるため</p>
<p>個人の学習に役立つのであれば使用すればよいと考えております。</p>
<p>学生自身が一番良いと思う学び方を選んでもらえたらと思う。</p>
<p>学習方法は自由だから。</p>
<p>学習効果が上がると学生自身が判断するのであれば、教員側にそれを妨げる理由はないため。</p>
<p>デバイスを使うことにより、講義内容を聞き逃す可能性があるため、積極的にいまでは言えない。</p>

学生によっては、用語や人物、語句、関連した内容を調べながら学習するのは効果的だと思うため。ただし、音を鳴らす、別の動画を見るなどはやめてほしい。
機器が授業中適切に使われているか、或は実際に学習効果が上がるか、確認は困難であるが、受講生の抱える事情（障がいなど）により利用が必須の場合などもあるので、一律使用を控えさせるのは現実的ではない。
取り組み方は人それぞれでよい。
学生一人一人の特性に合った方法を各自が選択できる環境は、学習効果向上につながると思う。
・ゼミでの利用は、教員が指示するとき以外は控えてほしい。オンラインゲームなど、ゼミ内容とは関係のない活動に入られると、ゼミが成立しない。 ・デジタル機器を用いた学びに比して、紙と手書きでの学習の方が、授業中のリアルタイムでの板書に比して脳への定着率が高いという、ノルウェー科学技術大学の研究班による近年の研究もあるようである。 ・何より、成績評価に決定的に大きくかわる定期試験は、手書きで実施される。普段の学習で書いておらずタイピングばかりであると、試験の成績に影響しないかと心配である。 ・各種資格試験も、一部試験を除くと手書きで実施されるものが多い。普段から字を書いている必要がある。
学生本人が学習がしやすい方法で学ぶのがよいと考えているため。
板書内容などのpdfファイルをタブレットなどで見ることができれば、授業を聞くことにより集中できるし、座席が後ろであっても板書が見づらいことが無い。なので、機器をうまく使ってほしいと思っている。
手で字を書く習慣が無いと、学習内容定着し難いように思うが、学生自身がそれ以上の効果がある使用方法を考えているなら、無理にやめさせる必要も無いと思われるため。
過度に期待はしていない。ただの道具。
授業中にアンケートをとったりするには便利だが、授業に集中しない（内職をする）ことが可能だから
積極的に推進するものではないが、許容している。その理由として挙げられるのは、紙媒体の六法を持参しない学生などにはインターネット上のものでもよいから参照してもらいたいため。また、PDF形式のレジュメに直接書き込み形でメモをとる学生も一定数いるため。
タイプの方が手書きよりも授業に集中できる学生もいると考えられるので。
学習効果の向上は、学生本人の気持ちや本人のやり方次第だと思うので、学生がやり易い方法でやれば良いと思います。
学生によってIT機器活用時のデジタルスキルが大きく異なっている。そのため、これらの実力を伴わない学生は、知識不足のため新規購入ノートパソコンを学内無線wifiにもつなげず、宝の持ち腐れになっている例が散見される。IT機器については、購入後の学内利用面でのサポート充実により、それらの高度活用を支援してもらえると、教員・学生とも助かるように思います。
使えばある程度効率的に学習できるのではないかと思います。
学生各自に合ったものであれば使って良い

全国（抜粋）

学生の一人ひとりの適性に合った学習方法がよいと思います。
分からなかった概念等を調べるのに使用すると学習効果が上がると考えるため
授業中の機器の利用は授業に関係することなのかどうか判別がつきづらいが、学習効果を高められているのであれば使用を妨げることはしない
デバイスのメリットがあるので、好みにもよるが、その代わり教科書を買わない学生が増えるのは問題である。教科書を写真で撮影するような著作権に抵触するような行為は認められないと思う。
利用を制限するものではないが、板書やスライドの安易な記録に使われると学習効果がさがると思われる。
学び方（覚え方）は人それぞれなので、好きなスタイルでメモを取ったり、参考になる情報へ積極的にアクセスする位しても良いと思います。授業に関係の無いことをしていても、それは自己責任なので、授業する側としては、周囲の迷惑にならなければ使用して良いと思います。
現時点でPC等を締め出すことは不可能に思います。授業以外の用途にも利用しているとは思いますが。
学力向上のために、使えるものは何でも使っていただいでよい。
講義した内容を補足する情報を得られるならよし、それを発言して紹介してくれればなおよい。
学生の学術的な分野における能力は低く、現時点では使いこなしている学生はほとんどいないため。
授業資料も印刷物からデジタルに変わりつつあるので、強制的な利用、あるいは排除は考えていませんが、個人の判断で利用したら問題ないと思います。
学生の理解が深まるのなら、補助的なアイテムとして活用しても差し支えないと考えている。たしかに授業と関係ないものを観ているというケースもあろうが、それはもう本人の履修態度の問題であろう。
講義内容に関する調べごとなのか、SNSを見ているのか判別しにくい。
良いとも悪いともどくに何とも思わない。授業をどう受けるかは学生の自由。教員がどうこう言う問題ではない。
本音はスマホなどがあると集中できないから講義中ぐらいいカバンの中に入れてほしいと思います。講義時間を大切にしたい方は良いと思います。ですが彼らの人生、生活ですからご自由にと考えています。
授業に関するデバイスやコンテンツを使用しているか疑わしいが、それも自己責任と捉えています
・授業で特に指定はしていないので、自分が学びやすいスタイルで勉強すればよいと思う。ただし、最近は、パソコン、スマホで電子的に教材を取得したりレポートを提出したりする機会が必須になりつつあるので、使えるようにしておくが良いと思う。
教員としては、エコだし、印刷の手間がないので、授業資料を電子媒体で提示していますが、学生さんから、「手書きでどんどん書き込みたいので、紙がよい」というコメントをもらうことが多いです。学生さんが自分の学修の仕方に応じて使い分けできたらいいと思います。

宿題をどれくらい自力でやっているのか気になる。以前は、試験に自筆ノート持ち込みを許可していたが、電子ノートだと多機能すぎて自力をテストできないので、近年は持ち込み不可にしている。もちろん便利なものは利用すればよいのだが、どこまでを本人の実力として評価してよいのが難しくなってきた。
双方向的な実習の授業の場合はとても良いと思うが、講義形式の場合は、授業に関する作業をしているのかどうか判別がつきづらいため、難しいと感じる
将来のことを考えれば、できるだけ使えるようにすることがよいと思う。ただ、使うことは学ぶための一つの方法であるため、必ずしも使わなければならないとも言えない。
講義の形態によるが、デジタルデバイスを使うことや使い方を習得することが目的ではなく、学問が身に付くことや考え方を身につけることが目的であり、そのためにデバイスやコンテンツが有効であると学生自身が思えば使えばいいと思う。ただし、仕事になったら調べる時間も判断しないといけない事だけだよ、と助言もします。
メモをとる場合、ノートに書きたい人とパソコンで入力したい人に分けられると思います。後者を好む学生にとって必要だからです。
デジタルデバイスは自由自在に使用できるスキルが必要。どんな場面でも、どんどん使って手足のように駆使してほしい。
板書をとるのが難しい等の配慮が必要な学生がパソコンやタブレットを使うことで、内容を聴くことに労力を費やすことができるのであれば、学習効果の向上につながるので、よいと思います。
学生自身のデバイス利用の習熟度が異なるため、個人によって教育効果も異なると思われるため。とはいえ、出来る限りデジタルデバイスの活用には慣れてもらいたいと思う。
学生自身が望んで使い、その結果学習効果上がるのであればよいと思う。無理強いする必要はないと考える。
印刷物の配布等の必要がないことと、主体的な予習復習等により学習効果が期待できる。一方、授業中の機器の利用は授業に関係することなのかどうか判別がつきづらい点はデメリットとしてあげられる。
デジタルコンテンツを使って学ぶ学生のみならず遊ぶ学生ももちろんいるが、遊ぶ学生はデジタルコンテンツがなくてもどうせ遊ぶ。
大学では、基本学びたいことを学生が主体的に学べばいいと考えます。たとえ、授業と関係ないことで利用したとしてもそれは本人の自由であり、義務教育でもないの、その授業よりも本人がそちらに力を注ぎたいというのならそうすればいいと考えております。
PCに記録として残すだけで、本人の記憶に残らないのでは？という心配はあるものの、きちんと活用できている学生の場合、入学してからの授業のノートなどがPCの中に全部入っているので、上級生になった際のゼミなどで学習内容を振り返るのには大変便利。
デジタルデバイスを効果的に使えるかどうかは学生のスキルに依存するところが大きいので、積極的に使うことを推奨できない。学生の判断で使用してもらい、授業態度などをみて個別に判断するしかないのが現状である。
過度なWeb検索などにより、講義への集中力が散漫になることを懸念する。但し、ノートをiPadで取ること、配布のデジタル資料に書き込むことは、現在の学生の授業受講スタイルにかなり定着していることも理解している。
使用方法や、思考方法を身に付けている学生には良いが、何も知らない学生は最低限できるようになったほうが良い
どのような方法が効果的であるかは一概には言えないので、学生の自由にするのが良いと考える また、効果的な教材の利用方法について、決まった形を教員側が教えるのではなく、学生個人個人が考え、試行錯誤することもまた、学習のひとつであると考えられるから
授業資料をオンラインで見たり、わかりにくいこと・知りたいことがあれば随時インターネットで調べてほしいから。学生は大人なので学習に無関連なことをしていても、それは自分自身の責任だと思うので気にしない。

■ どちらともいえない

名城大学

授業に関係する以外のことに使いたくなるかもしれない、そうなってしまった場合、授業内容の理解に支障をきたすため。また、授業内容と関連があることを調べていても調べている最中の授業内容の理解に支障をきたす可能性があるため。
数学では、板書を写真で記録するというのが良く見られる利用法である。 写真で記録して、情報を得たという点で一定の満足感が得られるのに対して、記録しただけでは全く何も学修につながっていない。記録した写真を元に自分なりにノートを作るなどの学修をしている人は意味があるが、大半の学生はそこまでのことをやっていない。それであれば、まだ自分の手でノートに書いた方が、その後の書き込みなどの利用もしやすく、学修につながる。

全国（抜粋）

授業科目によっては良いかと思います。中途半端な設備環境の中でオンラインや機器の導入がなされているため、効率が悪く管理などへの負担が激増しており導入しない方がよいとも感じる。
使い方によります。レポートなどを自身で考えもせずに盗用して作成することを助長するものであれば、学生にとっては害悪であり、安易に利用することを抑制する仕組みが必要と思っています。
デバイスの中でスマートフォンは、私的な利用と学びの使用が混在してしまうので好ましいと思わない。
使う場面と、使わない場面を区別できれば、よい。授業に関係のないことをしている学生は必ずいる。
学部上級生や大学院生であれば積極的に使ってもらいたいですが、新入生ややる気がない学生が集まってしまった場合は遊んでいるのか判別がつきにくく悪い習慣づけとなってしまうのではないかと危惧します。
一斉に使用するのであればよい。例えば、「では皆さん、各自スマホを出して、このページにアクセスして〇〇を見てください…」というように、教員の側からの指示で使うのはよい。しかし、ノートパソコンやスマホを学生が適宜見ている場合は、多くの場合、授業に関係ない画面を見ていることが多い。
講義資料のペーパーレス化、デジタルメモアプリを利用したノートテイクなどは時代の変化とともに主流になっているので積極的に活用しても構わないが、授業に関係ないことをしている人もいるため判別が難しい。また、カメラでスライドを撮影するなどのマナー違反

反も横行しており、教員として不愉快である。
その場で課題に取り組める利点はあるが、考えもせずすぐに検索する点やよそ事の温床となっている現実的な問題点、ノートやメモをとらずにわかった気になっている点など、短所のほうが目立つ。
授業で使用することに否定はしません。ただ、無断で頻りに板書をスマホで撮ったり（シャッター音がうるさい）、最近「自筆のノートのみ持ち込み可」という条件を試験をしようとしたとき、タブレットでノートを作成していた学生が申し出てきて、対応に悩んだことがあります（結局タブレットノートは認めました）。
必然性があれば利用すべきであるし、必然性がないことは許諾すべきでない。デバイスやデジタルコンテンツがあるかないかが問題ではない。座学の講義では講義に集中させるため不要。学生に自主的に調べさせたいなら反転講義や演習に積極的にすべき。
授業中に別のことをやっているか判断ができない、問題を出しても考えることをせずに調べてコピーで終わる、考える問題であっても答えを学生間で共有して公平な採点ができない
授業の質に依存している。少子化に向かう中、教育に力を入れた方が良い。対面でないといわれない臨場感を伝えられている授業であれば、デジタルコンテンツは不要。面白くない授業ならばデジタルコンテンツの方が良い。
授業中に遊んでいる学生や、他の科目の宿題をしている学生も中にはいるため、学習効果が必ずしも上がるとはいいがたい。科目によると思います。
講義資料を閲覧する、授業に関連する内容についてその場で調査する、など有効に活用するのであれば使って構わないが、現実にはゲーム等に興じていることが多々あるように見受けられる。
受講者間の前提知識の差が非常に大きく、授業についていくための知識を補う目的で活用するのであれば歓迎したい。しかし往々にして、授業に無関係なネットサーフィン、時には別の授業の課題を始めてしまうケースが後を絶たない。気づいた時には注意しているが、学生各自の自覚に委ねているのが実情である。
学力が養われるように使うという限りにおいては有効だが、自分で考える努力をせず安易に外部から解答を得ようとする使い方は学生のためにならない 試験の際は外部からの情報を遮断させることが困難であるため、使用するのが前提であれば出題の内容や方法をかなり工夫しなければならない
ノートPCを持ち込んでいる学生がいるが、授業とは別の作業（いわゆる「内職」）をしていることをよく見かけるため、どちらとも言えない。
ケースバイケースだと思います。私の授業では積極的に使わせることもあります。指名されそうになった学生が慌てて使い出すと、「予習してきませんでした」と公言しているようなものなので、かえって心証が悪くなりますし、こちらの意欲も低下します。いっそ授業中は使用禁止とするほうがよいのかと迷っているところです。
便利だが本当の意味での知識の定着に繋がっていないように感じている。
講義のデザインによる。積極的に使うか、使わないかを教員は考慮して講義デザインをするべき。
まずは、講義に集中してほしいと思います。ながら調べは、調査にとっても、講義の受講に対しても良くないと思っています。
何かを調べる課題を教員が与えた時など授業の内容によっては積極的に使ってもらいたいと思います。 しかしそのような必要がないときは基本的には使ってもらいたくないです。機器の利用が授業に関係することなのかどうか判別がつかないからです。
資料の検索などには活用できるが、他の人との連絡できると「自分で考えることをせずに、他人任せ」になることがある。
画面の視聴だけでなく、実際に手を動かす方が理解度が増すように思います。

■ あまり良いとは思えない

名城大学

授業中のデジタルコンテンツ利用に費やす時間は学生それぞれなので、口頭による教授を行う割合が減る可能性があり、対面授業の学習効果が下がる。
授業と無関係のコンテンツを見ている学生がいるため

全国（抜粋）

授業中の機器の利用は授業に関係することなのかどうか判別がつきづらいため、今学期実際に学生実験中に関数電卓を使用してデータ整理を指示したにも関わらず、ノートPCを出してエクセルを使用してデータ整理をしていた学生がいた。
どのような利用を行っているのか、講義する側から判断しにくい。録音・録画されていたとしても気が付かないため、困る。
書くことによって記憶するため、タブレット端末などを用いて写真撮影などで板書をするのは好ましくない。
自身は、いろいろなデジタル機材を愛用しているが、研究や教育においてはアナログが最もいいと思っている。ルーズリーフよりノート、シャープよりも鉛筆で授業を受けたほうが、授業を体系的に学べるし、思考も柔軟になると考える。やはりデジタル機器は、その用法について思考を奪われているようにも思うから。 なお、iPadをノート代わりに使用している教え子の講義の理解度、論理構築能力は、私の知る限りは低い。
動画を見たり遊んだりしている学生との区別が付きません。端末の持ち込みを正面から認めると授業が崩壊する危険性をはらんでいます。
自身で文字を書くことに一定の学習効果があると強く考えている。パワーポイントファイルの掲示などは、教員側からすれば便利かもしれないが、それに頼っていると学生はますますノートをとらなくなり、文章作成能力も低下すると考えている。
授業中のパソコン・スマホの利用は、授業に関係することなのかどうか判別がつきづらいため、忍びにゲームする学生が多すぎる。それに、先生の説明をちゃんと聞いているかどうかは分からない。テクノロジーに頼りすぎると、実践的な学習能力が低下することもある。

学生の学習目的に特化した生成AIでない限り、授業における利用を認めるべきではない。授業中に持ち込んだデジタルデバイスを使用すること関心が傾き、授業内容の学習自体が疎かになる傾向が懸念される。

スマホでの板書の撮影、タブレットでのノート作成は残念ながら学生の知識としての定着に効果がなく、昔ながらのノートの方が学習効果がある。パワポの講義も後日見直したときに思い出せないという事実がある。

ラップトップの画面やキーボード音が他の学生の集中力を削いでいる。

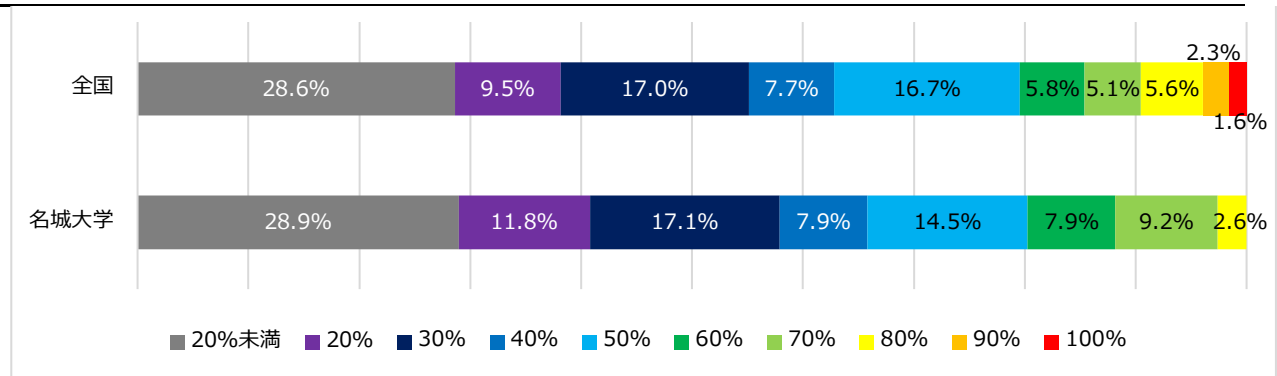
受講中の視線が合わないためコミュニケーションが取りにくい。

タブレット+ペンであれば顔を上げる機会があり、音も静かであるのでまだ良い。

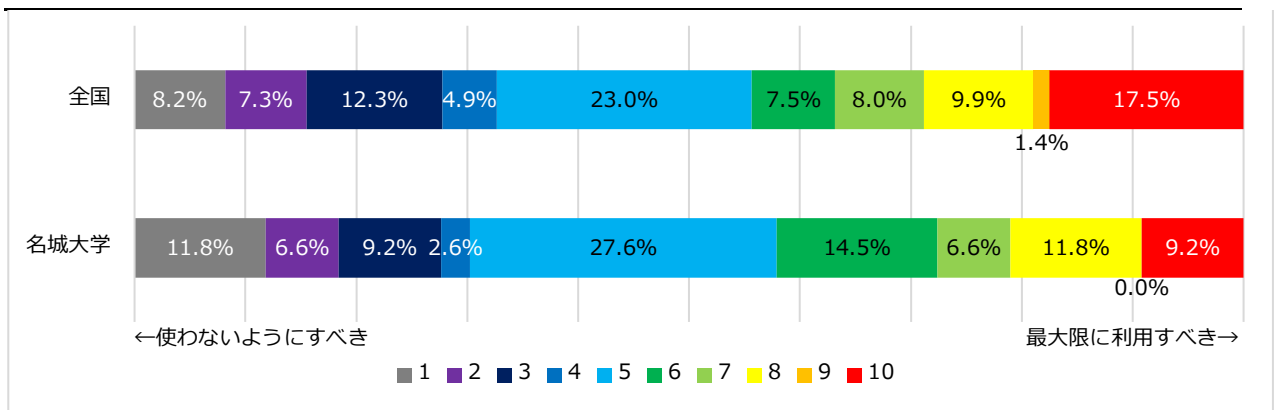
そもそも、「直観に基づいて手で書く」という作業は思考に良いと考えられる。

講義を聞いているかどうか判別しづらい。また、そもそも学びの定着という点ではデジタル機器の有効性実効性に疑問を抱きます。目や姿勢など健康にもよくないので、総じてデジタル機器をメインの学びのツールにしようという近年の風潮にも肯首しかねます。

**生成 AI の学生利用についてお聞きします。自大学・研究箇所において生成 AI サービスを利用して
いる学生の割合はどの程度であるとお考えですか。23 年度の状況で回答ください。**



**学生の生成 AI 利用について望まれる利用度合いを 10 段階であらわした場合、もっとも当てはまる
数値をお選びください**



現在、学生の生成 AI 利用にあたり、どのような指導方法をおこなっていますか。

(入力されたものを無加工で掲載しています)

名城大学

これも自己責任。自分で考えなくなるような使い方は、将来の自分の成長につながらないことを理解してもらうようにしている。使っていてもいなくても、適切な評価ができるようにする。

提出課題への適用を避ける

自分が判断できないことは聞かない事

現時点でのAIの打ち出す結果は信憑性が乏しいことを認識しておくこと、(法律学の場合) 法的推論過程の思考様式と、AIの学習方法・結論導出方式とが異なるため、導出された結果を適用すること自体が不適切な局面がありうることを、の伝達です。

レポート作成での利用禁止を周知

レポートやレジユメの作成を生成AIに代行してもらうことは禁止している。

最終的には、自分の頭で考えないと、自力がつかない(考える力がつかない)ことを話している。

実験レポートの作成など、生成AIの活用を禁止する事例を具体的に提示している。

文章の参考にしたり、文章をブラッシュアップするのに使うのは良い。引用箇所を明確にする必要があるので注意する。

レポート作成でも、二次資料に使ったこと、AIを用いて部分的に引用するなど、脚注に記したうえで使用してもらいたい。また、AIには、ネット上で示された内容のみから生成されており、間違った内容も記され、著作権上にも問題になることがあるため、使用には注意を要することを指導したい。
レポート課題では利用を控えさせているが、現実はそのチェックは困難である。
参考にするのは構わないが、そのまま鵜呑みにされると困る。専門的な部分に関しては結構嘘が多いので。
生成AIで得られた情報についてはすべて正しい内容であるとは考えず、必ず間違いが含まれているという前提で接し、自ら内容を確認すること。
・事項によっては、生成AIの作成容が全くのどっちあげのものもある（日本のある過疎地について質問したところ、嘘八百満載の回答が返ってきた）ので、生成AIを100%信用してはいけない。 ・下調べ手段のひとつとして利用することは構わないが、その内容については信用せず、自身でしっかり検証しておく必要がある。そうしなければ、ひどい目に遭う確率が高い。
あくまでもツールとしてうまく活用できるようにすることを伝えている。 （何も考えずに生成AIを利用するのは避けた方がよいと伝えている。）
著作権等との関わりで指導している。
事実の確認、著作権侵害がないかの確認、最終的に必ず自分でアレンジし責任を持つこと。
特にしていないが、不正使用をしない注意喚起をする程度
少なくとも法学分野でレポート等には使わないように、という指導をしています。存在しない法律や文献を生成することがあるので。AIの解答をベースにして新しいものを付け足したり、組み合わせて新しいものを作ってください
積極的に利用し、有効かつ適切な利用法を身に付けさせる
参考資料として利用すること。自分で確認した上で正しいものだけを利用すること。
利用方法については指導していないが、利用した場合はきちんとそのことを明示するように指導している。
ライティングや論文などでの使用は禁止している。
法学の事例問題を生成AIで解こうとすると、もっともらしいが正解でない解答を生成することを例示し、レポート等に利用しないよう諭し、また正確な法知識がないと生成AIが作成した嘘解答を見抜けないことを注意している。
生成AIに関しては、それを使用することで生じるリスクを考えながら、使用するように伝えている。
自分で考えて理解するためのツールであれば、問題はない。
特に講義中に生成AIに関しての指導を行ってはいない。
出典を確認する。
自立して文章等を作成出来るように、レポート作成には利用しないよう伝えております
自分でなんらかの発表する場合には、使用を控えるように指導している。

全国（抜粋）

原則として利用は制限していません。ただ、生成系AIツールの出力結果は信用できないことを伝え、生成系AIツールでは対応できないような課題を検討して出題しています。
答えを求める検索に近い形ではなく、自分の考えを広げるための壁打ちやアイデア発散などでの利用を促している。
事実と異なる記述をする可能性のある生成AIの利用は、レポート等の文章作成において現時点では推奨しないこと、仮にレポート等の文章作成で生成AIを利用した場合には記述ひとつひとつのファクトチェックが必要となることを伝えている。
ソフトウェア開発段階で有用であることは明らかで、その用途での使用を勧めている。
生成AIを120%フル活用したところでそのまま好成绩になるような課題に設定していないため、積極的な活用を推奨している。どのような質問をするのが重要なので、適切な問いを考えることは好影響だと考えている。
使ったことがないというのが問題であり、まずは使ってみて欲しいと伝えている。 その中で、AIの弱点についても実施しながら示すようにしている。
①生成AIの回答を鵜呑みにせず、自分で真偽を確かめて上手に活用すること。 ②固有名詞には弱いので、それを入れた質問は信用しないこと。 ③手順を明確・具体的に指示すること。
学習のサポートになるのであれば活用すればよい。 レポートや論文で参考にするのはよいが、そのものに使用すると、引用などの出典が示せないため、剽窃などになってしまう可能性が高いので、避けるように指導している。 生成AIにどのように問いかけるかで答えが変わるので、問いかける力をいかに養うかをしっかり考え、使いこなせるようになることが必要である、と話している。
それがなくても学習できる素地を養うことが大切なので、特に斡旋・強調はしていません（いまのところは）。道具があれば便利ですね、というぐらいです。学生さんには自らが論理的な思考で主体的に行動できることを願っています。こういうことは、実験や卒研で直接話してみるとすぐ分かるので、そこで如何に振る舞うか（そこで、「AIに聞きますから、ちょっとまってください」とするのではなく、すぐ判断・行動できるか）が学生さんには求められると思います。
AIが出してきたものが妥当かどうか判断できるのあれば使用すればいい。そうでないのであれば、AIに使われているだけなので使用しない方がいい。
生成AIの回答が必ずしも正しいとは限らないため、自分自身で精査が必要ということを伝えています。
使用の制限は困難であることは前提として考えなければならない。レポート作成（作文）において乱用することの是非は言うに及ばずであるが、現在は、利用することのメリットとデメリットの両面を知り、良い面は取り入れる姿勢は持ってほしいと伝えるにとどめている段階である。

<p>教員である私は専門的な問をAIに投げかけ、その回答が完全でないを示して添削し、最終的には人の判断が重要であることを具体的に示して利用上注意を促している。</p>
<p>私は学生に、透明性を中心とした倫理的な利用のガイドラインを教えています。AIを授業、グループ研究、そしてピアレビューのタスクでどのように使うかを示します。また、ファクトチェック、バイアスの検証、データプライバシーの重要性も教えています。</p>
<p>課題作成には原則使用しない。自身の探究力を高めることを望む。</p>
<p>文系の学問に関しては、なにかを調べる時などにAIを利用してもよいかもしれないが、AIの提供する情報は正確でないことが多い、ということは学生の念頭においてもらっている。私自身AIを使って調べてみることもあるが、ほぼほぼ情報内容は間違っているし、文系学問研究の世界の最新の研究成果はAIにはなかなか反映されにくい。</p>
<p>生成AIを使ってレポートを書いて効率よく単位を取ったと思う人がいるかもしれないが、自分の頭で考えたり知識を習得しなければ、何のためにわざわざお金かけて大学に入って勉強しているのかわからない。生成AIを効率よく使うのは構わないが、自分の頭を使わずに生成AIを使って「それっぽい」答えを探すことしかできない人になってしまったら、損するのは自分だ。</p>
<p>学部学生においては指導していません。</p>
<p>研究室配属学生については、使っても良いが能力が身につかない旨を説明しています</p>
<p>外国語の翻訳機能を使っているとされる解答が見られる。自分の思考を経ずに結果が出ても得るものはない、と言っているが、こればかりは一度痛い目をみないとわからないだろう。</p>
<p>行き詰ったときのアドバイザーとして利用する、自分でやろうと思えばできるが手作業でやると逆にミスが出そうなので生成AIにやらせて効率化する、といったことは推奨するが、生成AIの出力結果を見て、おかしいと判断できないようなことでは使うのは推奨できない、と指導しています。</p>
<p>適切な回答が得られるような質問方法をよく考える 回答を鵜呑みにせず、信頼できる内容かどうかをよく検討する</p>
<p>AIの回答が正しいといえる根拠を自分で示すことを利用の必須条件としている。しかしこうすると、最終的には自分の言葉で全て回答しなければならぬため、AIを利用する意味がない。 あくまで参考情報の一つに留めるよう指導している。</p>
<p>生成系AIの誤回答例を紹介し、正誤に関しては自分で判断する必要があることを伝えている</p>
<p>論理的処理や思考プロセスを補助するツールとして使うべきで、素朴な質問をすべきではないこと。使わないと仕事が成り立たないこと。もっと活用すべきだということ、などです。</p>
<p>移行時期なので、教員個人が判断することは難しい。大学のガイドラインに従うのが前提で、個別の案件では、学生の能力を総合的に伸ばすためにどのように利用するのがよいかは自分自身で判断して利用するように指導している。</p>
<p>生成AIを利用するのはよいが、意味を自分なりにくみ取り、自分の理解の範疇以外のことは書かないこと。もし、自分が理解していない事柄を書くなら、それを調べ理解してから書くのなら生成AIはもう一人の講師となりうると考えておりますので、それでいいのではと考えています。</p>
<p>今のところ、授業における学生の生成AIの使用の実態ははっきりとは把握できていないが、勉学における学生の生成AIの利用は双刃の剣であり、しっかりとガイドラインに従った利用でない限り、学生の利用は望ましくないと考えている。</p>
<p>生成AIで作成された内容を試験や課題等でそのまま使うことは禁止し、また利用の際は担当教員によって生成AIの利用に対する考え方が異なるので、担当教員の指示に従って利用の有無を決めること、また個人情報・機密情報の入力は避けるよう指導している。</p>
<p>あくまで参考程度に留め、最終的には自分できちんとエビデンスを確認した上で、自分の言葉で回答するよう指導している。</p>
<p>AIの生成結果を鵜呑みにせず、自分自身で確認すること。AIとの対話を通して自分の理解を深めるために活用するのがよい。</p>

将来的に、学生の生成 AI 利用についての指導はどのようにとりくむべきとお考えでしょうか。

(入力されたものを無加工で掲載しています)

名城大学

<p>メリット、デメリットをしっかりと理解できるように指導する。</p>
<p>得られた情報を自分なりに解釈できる力を持つべき。</p>
<p>利用することを前提とした、カリキュラムと評価法の確立</p>
<p>もう少し、社会的に定着してこないとな評価できない</p>
<p>自分で考えることを放棄せず、生成されたことに対する判断が自分でできるように指導することが重要です。</p>
<p>今のところ、考えを構築できずにいるところです。</p>
<p>何に利用し、何に利用してはいけないかを不断に考え続けること</p>
<p>自分なりの考えをまとめる前段階として有効に利用できるよう指導したい。</p>
<p>担当科目の学習にとって生成AIが有効か否か不明です。</p>
<p>どのようにすべきかわからないので、取り組み例を知りたい。</p>
<p>考えなければいけない評価をしっかりと。途中の段階で生成AIを利用していたら、力がついていないので、評価の時に結果が分かるような取り組みをする。</p>
<p>生成AIに関する講義を必修科目として開講し、技術のメリットと注意点について学生自身で理解してもらう。</p>
<p>生成AIの出力を鵜呑みにせず、自身で判断できる力を養うこと</p>
<p>サポート的なツールとして上手に利用する。</p>
<p>生成AIの利用は今後ますます拡大すると考えるが、それに影響されず学生の能力を測る仕組みをいかに講ずるか、未だもってよい知恵が浮かばない。</p>

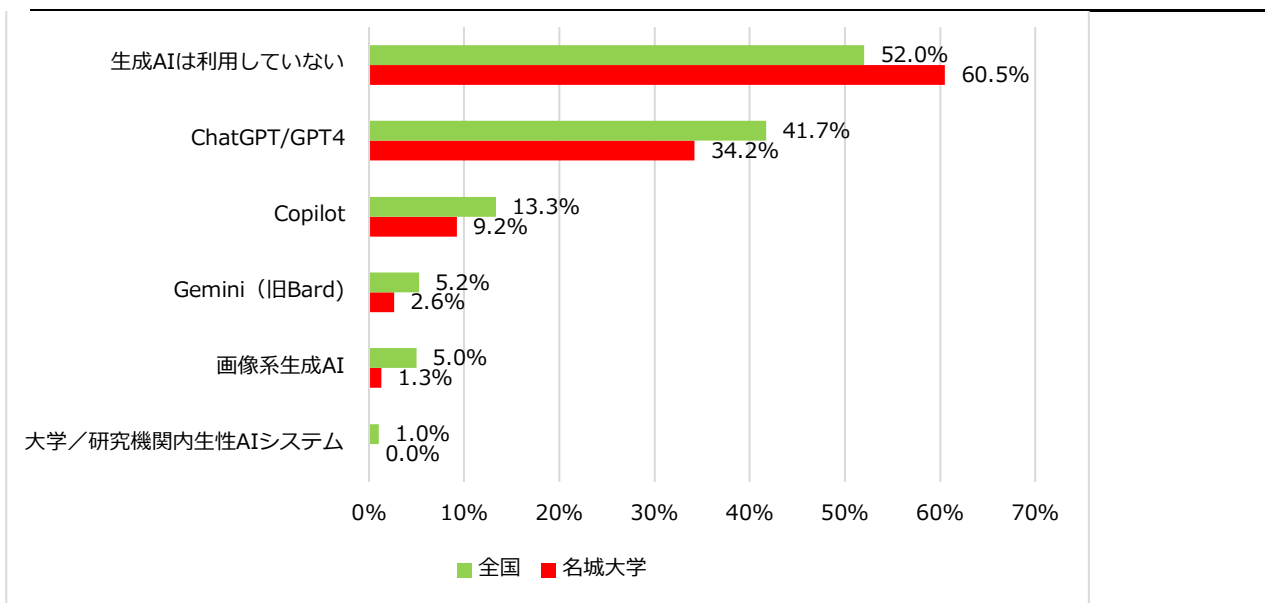
適正な利用の仕方が重要だと考えている。
リテラシーのひとつとして上手に利用するように指導したい。
AIを上手に使えるようになること
正しい情報や論理を識別できる力が必要になると思われます。したがって、生成AIを利用するためのリテラシー教育があって、生成AIの利用を行った方が良く思う。
利用を完全に制限することはできないと思うが、授業の中でどのように考えたかを問うことが重要だと思う。
生成AIが担えない役割を人間が担うことが今後重要になると思われるので、生成AIの使い勝手を知っておくことは有用だが、安易な理由によって成長の機会を奪われないよう注意が必要。このことを学生にはよく周知していくべき。
自らの学修の補助、効率化としていかにして主体的に生成AIを利用できるか、また生成AIを利用して得られた結果の真偽をいかにして見抜くかというために、基礎的な学習能力をいっそう強化することが必要になる。
・大学や学部で、生成AIを利用した提出物に対する対処方法を決め、それに則した対応をするしかない。 ・生成AIを利用して作成された提出物を判別できるソフトが発売される日を待っている。
今後は生成AIの活用が必須の時代になると考えているため、上手に付き合っていけるような指導が必要だと考えている。
著作権等、順守べきことを意識して、必要に応じて有効に活用する。
著作権、オリジナリティへの配慮方法を徹底する。
活用方法と研究倫理を踏まえて指導すべき
少なくとも法学分野では利用を推奨しづらいと思います。
積極的に使用するよう指導
正しい利用法、有効な利用法について体系的に教えるべきである
積極的に活用したら良いと思うが、活用するために必要な知識をきちんと身につける必要があるため、その点を踏まえた指導が必要だと考える。
膨大な論文の検索には適していると思われるが、必ず、原著にあたることと、AIでの回答をそのまま鵜呑みにしないことを指導するべきであるとする。
生成AI利用については、学生本人の「正義」にゆだねる。
レポートや課題などでの利用は慎重にしてほしい。
学生が、生成AIを全く信頼せずに利用できるよくなれば良い。
まずは、教員がそのメリットについて勉強してからでないと指導出来ないものと感じております。
自分の脳で考えるのが普通

全国（抜粋）

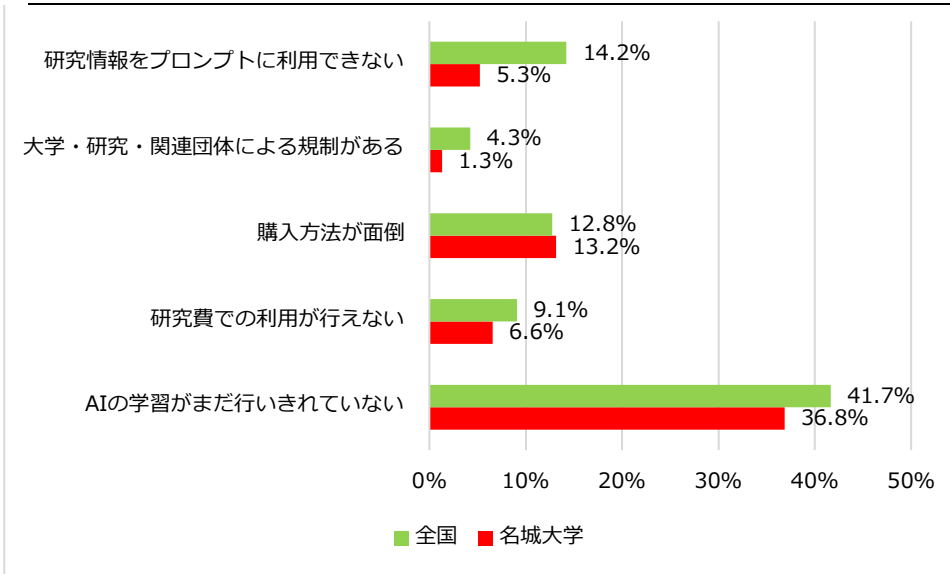
操作方法や情報収集のために積極的な利用を行うべき分野もあると思うが、全てを任せるとAIによって全ての物事が判断されてしまい、考えるということを放棄してしまうため注意が必要である。
専門家による指導。どこまでが良くて、どこから悪いのかというガイドラインが必要。
使えるものは使うべきだと考えている。しかし生成AIの活用でそのまま好成績になるようなら大学の存在価値はないと思う。行ってしまえばインターネット検索の利用と同等に考えている。題材を探したりするのは便利だが、大学で身につけるべき「考える力」とは直接結びつかない。
逆に、ネットで調べれば100点が取れるような成績評価手法は早期に廃退すべきだと考えている。
自身で論理的に考える能力を身につけた上であれば、AI活用は非常に有用と思っています。大学では、多様な分野の科学の原理原則を学ぶとともに、論理的な思考力を身につけられるようにより力を入れていくべきでしょう。
生成AIの結果を鵜呑みにすることなく、その仕組みや利点・欠点を学生自身がよく理解し、生成AIと協同して課題等に取り組むことが重要。
生成AIを全て信じることは危険であるが、全く使用しないということも勿体ないと思います。自分自身で考えたことがらについて、生成AIが生み出す意見も聞き（ただそれに完全に従うこととは異なり）取り入れて改めてブラッシュアップしていく、というスタンスがよいのではないのでしょうか。
課題等は自分の力でやる方が知識や判断力などが身につくと考えるが、生成AIの利用については検討していない。
ワードやエクセルを使うような基本リテラシーになると思うので、使うことを前提とした指導が必要になる
近年中に、社会科学系の授業内容は、AIの利用を前提に、その利活用に必要な知識の提供が主となると考えている。
「自分が賢くなるために使いこなす」ことを目的にさせたいです。
レポート作成を例にとると、言葉の意味を調べたり、文章表現などを参考にするのはよいが、学生自身で取り組んでこそ、論理的思考力を伸ばすことができる。生成AIは一つの道具としての利用にとどめるように伝えたい。
使いこなせるようにすべきだろうが、基礎的な読解力、表現力が無いと難しいのではないかと感じ、やや懐疑的。
リテラシーを高めること（まずは教員から）
理系と文系では違うので一概にこういう指導、とは言いがたい。「生成AIの利用」と言ってもいろいろあって広範囲にわたるので答えにくい。現時点では慎重にならざるを得ないので、指導でもむやみに使用を推奨したりするのではなく、利点とともにリスクや問題点もあわせて学生には伝えるようにしている
使って良い場合と、使用が不正にあたる場合のルールを明示する
生成AIの便利な面と問題点、そして法律を併せて指導する必要がある。
SNSの利用を含めて、情報リテラシーを総合的に指導する段階に来ているとおもう。
辞書と同じで使うようになる必要があると考えている。しかし、結局基本がわからないと生成AIの解が正しいのか間違っているのか

判断できない。学問に王道なし。評価する側は逆に、口頭試問などの原始的な評価になるだろう。
レポート課題以外の方法での成績認定に主眼を置くべきと考えます。また、先生ごとの方針の違いを何らかの形で明示すべきです(私の授業で「〇〇先生は使ってよいといった」と言って使う学生がおり困っています)。
ウェブ検索と同じようなものと考えています。積極的に使えば良いと思いますが、何も考えずにコピペをするだけなのは良くない。教員は生成AIで解けないレポート課題や問題を作成する必要があると思います。
現在のような話題性がずっと続くとはあまり考えていません。通常のインターネット検索やその他のオンライン・オフラインデバイスと同じように、自然にそこにあるものになるのではないかと考えています。個人的には、その変化や開発についていながら体系的な指導をすることはかなりの負担になると感じるため、その時その時にできることを見せたり試させてみたりするようにしていくつもりです。
誰がやっても変わらない作業はAIがやっても問題ないが、個人の能力が試される部分で使用しても意味がない、力にならない(訓練にならない)と指導したい。
教員による取り組みではどうにもならないでしょう。 小中高大すべての教育制度を根本から変える必要があるでしょう。
利用していることをチェックできるシステムの構築
具体的にどういうシーンで使うとよいのかを指導する必要がある。教員側の成績評価の仕方も変わらなければいけない(単純なレポートは成立しなくなってきたと思う)。
生成AIは社会において必要不可欠なものになるので、授業等でも積極的に利用して、そのメリット・デメリット等を考えて学習するように指導すべき。
全学的に積極的に活用できるよう統一した指導をしてほしい。現状は、各教員に委ねられており、使うなという教員と使えという教員が混在しており、学生が判断に苦慮している。
正直分らない。ワープロの普及で手書きの時代は終わった。パワポの使用が一般化し、板書の時代も終わった。この延長上だと考えると、学生が自前の文書を書く時代も終わったと考えてもよいかもしれないと思うし、それは違っても思える。
教員が指導しないといけないことなのか、その判断がまだ難しい。例えばパソコンの使い方を教員が指導することなのか? AIを使って研究に飛躍的に使える方法が出てきたら講義で紹介するかもしれない。
情報セキュリティ問題と合わせて学ぶべきである。
利用方法の例とその期待される成果の明示は必要だと思われる。
AI利用は避けられない事項だと思う。
生成AIの得意分野が何かを熟知したり、生成AIが導き出した回答を適正に判断するなどのリテラシー教育が必須だと思う。
大学4年間は、自分の頭で考え、論理的に読解し、分析し、発表する力をつける最後の機会なので、大学在学中にAIを利用すべきではない。
今後生成AIは発展することは間違いなく、就職後に生成AIの使用が期待される立場になることも想定されることから、生成AIを使わないのではなくて、その適切な利用法と情報リテラシーを身につけさせることの方が肝心である。

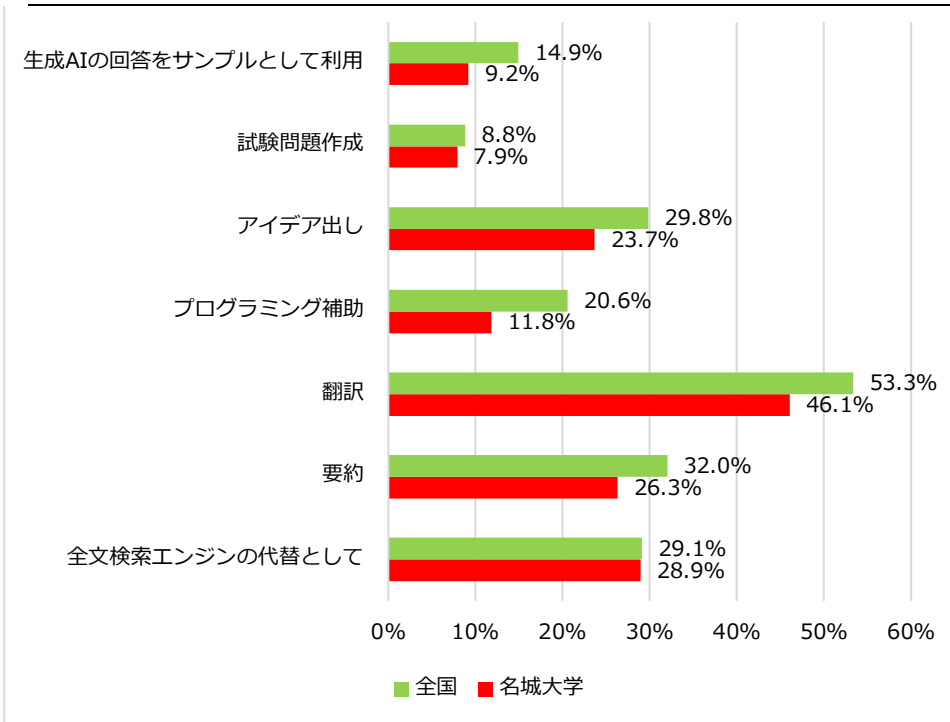
生成 AI の研究・教育利用についてお聞きします。現在利用している生成 AI サービスについて利用しているものを回答ください(複数回答可)



生成 AI の研究利用について当てはまる状況について回答ください（複数回答可）



生成 AI の用途についてお聞かせください（複数回答可）



研究の生成 AI 利用について考えられていることがありましたらお書きください。

(入力されたものを無加工で掲載しています)

名城大学

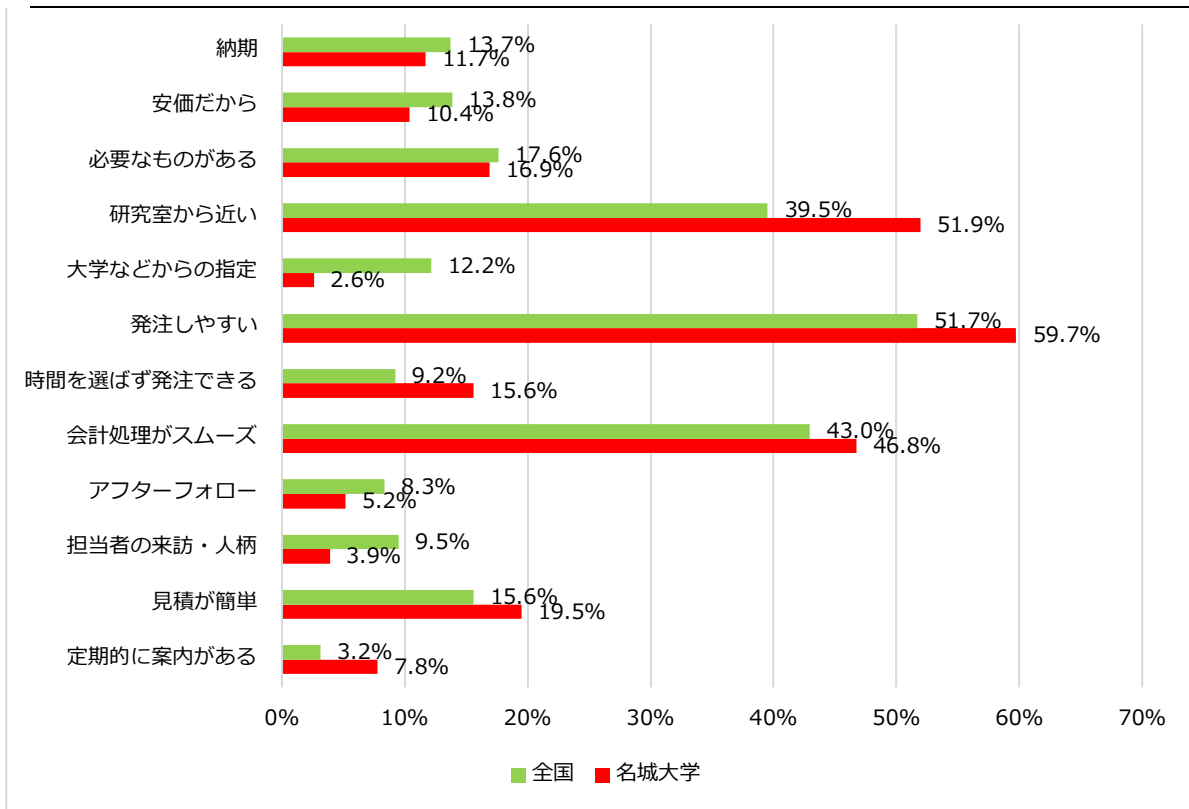
色々試してみたい。
単純作業を効率化するには利用すべきです。
従来研究の情報収集など
生成AIに関する知識を高めるためのセミナーを開催してほしい。
研究成果の下記など。
・翻訳ソフトを利用することはあるが、正しくない
今後利用は拡大すると思うが、私自身はあまり興味がない。
便利
業務の負担を減らす意味でも、とても興味がありますが、未だどのようなものかを理解できずにあります

全国（抜粋）

まだ自分の分野では生成AIはまともな出力を出せない
適切に利用できれば便利だと思うがあまり必要に迫られていないので使うことは少ない
研究者としてはまだなお「積極的に使用していく段階」ではないように思う。
機密保持やハルシネーションには注意する必要があるが、基本的には積極的に活用している。
研究アイデアをまとめたり、情報を仕入れるために使いたいと思っています。
英文校正は利用してみたい。
現時点では研究自体に利用することはなく、論文執筆の際に英文チェックに活用している。研究への活用も検討したいが、検討する時間がなく理解が及んでいないのが現状。
実験が主なので、プログラミングや検索の手間が省けていい。
学生も同様に使用できると、試験問題がわかってしまう恐れはないだろうか（100%安全と言い切れなければ難しい）
生成AIがより進化を遂げたら、法学の分野でも活用されるようになると思う
前にも書いたが、研究論文を書く際に日本語を英訳しようとする、AIが覚えて広めてしまうので注意が必要。
申請書や報告書等の執筆で利用したいが、期待するような出力が返ってこない。
シミュレーション、最適化の指標として生成AIを利用できるのではないかと考えているが、その手段、手法はわからない。
まだどこまでが生成AIでできるかわからない（規制を含めて）
人間が読むよりも正確に論文を読んで要約し、人間が書くよりも正確に研究成果を論文としてまとめることが可能になります。重要なのは、研究自体や発表など、人間がこれまでやってきたことが、どういうことだったのかを、改めて問い直すことだと思います。
AIはインターネット上のあらゆる情報源から情報を引き出す。これには、検証されていない意見や、信頼できない情報源で作成されたアイデアも含まれる。したがって、AIは研究用としては信頼できない。
情報漏洩の心配が強いです。
一般的な文献を調べたり、下調べのための情報を得たり、可能な反論を教えてもらうのに便利。ただし、出力される文章は通り一遍で創造性はないので、研究のためのアイデアをださせたいとは考えていない。
人文系の分野においては、情報収集の補助のために生成AIは利用できると考えている。たとえば、「日本の1960年代から70年代にかけての高度経済成長のネガティブな側面を論じた文献にはどのようなものがあるか、いくつか文献のリストを挙げてほしい」といった質問をし、参考文献を探索するヒントを得るといった活用方法である。しかし、考えているというよりも、実際にそのような使用を試みたが、現在の生成AIの蓄積している情報では能力不足で、もっともらしくいくつかの文献を挙げてきたが、どれも実在しない本や著者の名前を生成していた。現時点ではとても活用できるレベルにない。
要約は本当に便利。論文や申請書では、さすがにそのまま出せるレベルにはないが、たたき台としては活用できる。
他分野との横断的研究が増えており、詳しくない分野に関して概略的な理解ができ、調査の敷居が下がったことが大きい。コード作成やインタビュー整理ではかなり支援が受けられて効率が上がった。一方で競争のなかで急激にサービスが高度化していくため、どれに課金すべきかが悩ましいのが現状。
業務の効率化に役立つそうだが、使い方を覚えることのハードルが高い。
研究に生成AIを一切使用すべきではないと考える。研究しているのは誰なのか？もはや利用者はいわゆる研究者ではない。研究者としての能力が低下していくと考える。
私は質的データの分析、データの解釈が面白くて仕方がないが、それをAIにやらせたい人がいることに驚きを感じている。研究は、自身の頭で考えることが醍醐味と思う。その醍醐味をAIに奪われることがないようにしたいと感じている。
分野外の研究者の一部からは、申請書などの文章や論文執筆に、生成AIを用いているという話を聞く。個人的にはナンセンスと言わざるを得ない。英文法の確認程度なら良いが、研究者が成果をアウトプット（論理的に文章化）することこそが、自分らしさを発揮できる最高に良い場面であるはずなのに、その文章構成レベルからAIに任せるといった思想が理解できない。
入力した事項がAIに保存され、他者の学習に活用されることで生じる情報漏洩が心配。

【4】その他

生協で購入する理由を教えてください



生協以外を利用するメリットをお聞かせください

